

2014. 2. 23 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2014年

グレイトハウス著「主が聖であられるように」

XV. ヘブル書の聖化②「信仰の安息」

テキスト：

「私たちは、この安息にはいるよう力を尽くして努め、あの不従順の例にならって落後する者が、ひとりもないようにしようではありませんか。」（ヘブル 4:11）

はじめに：贖いの雛形としての出エジプト

過ぎ越しの子羊≡キリストの死

紅海渡渉≡バプテスマ

マナ≡聖餐

カナン入国≡信仰の安息

A. 神の安息を逃したイスラエル

1. イスラエルは、カデシュ・バルネアで反逆し、約束の地に入れなくなった（民数記 14）。
2. その反逆を繰り返すなどの警告が5百年後、詩篇 95 篇で与えられている。

B. 新約で約束されている安息

1. 新約の私たちは、モーセ時代よりも豊かな約束を与えられている。モーセへの約束は安息の土地に関わるものであったが、私達には霊的安息が約束されている。
2. その約束に入る道が、キリストの贖いによって用意されている。
3. 折角クリスチャンになったのに、全き贖いを受け損なうならば、エジプトを出たのに、カナンに入り損なったイスラエルと同じである。

4. だから、不信仰に陥らず、信仰をもって、全き安息に入ろうではないか。

C. 全き安息とは

1. (最終的な天国での安息のことではなく) この世において経験する安息のことである
2. 聖霊による義と平和と喜びのことである。
3. 天への備えとしての罪からの安息である。
4. それは、己の業(努力、自己義)を休むことである。

D. 安息を経験するために

1. 頑なではなく、柔らかい心を持とう。
2. 先延ばしではなく、「今日」入ろう。
3. 不信仰ではなく、信仰によって入ろう。福音を聞いたならば、それを信仰によって自分と結びつけよう。
4. ぼんやり待つのではなく、力を尽くして求めよう(12:14)。